

第1章 観光統計調査

1. 台東区の観光

我が国における観光の現状は、羽田空港国際化オープン、訪日観光査証の条件緩和に伴う、訪日外国人観光客の増加など国際化が加速する一方、国内においては東北新幹線（盛岡～青森間）、九州新幹線の開業など、観光を振興させる要因がさらに完備されてきている。

台東区においても、近く、上野動物園でパンダが再び公開される予定であり、国立西洋美術館は世界遺産登録を目指している。今後、浅草文化観光センターのリニューアルオープンや、東京スカイツリーの開業も控えている。

こうした環境の変化を捉え、平成22年3月、台東区は「新観光ビジョン」を策定した。このビジョンでは、今後の台東区観光の目標とする姿を「本物に会えるまち」とし、台東区が持っている魅力の向上、にぎわいの創設を官民共同で目指した86の事業からなるアクションプランを示している。

本調査は、国際観光都市づくり、誘客促進及び今後の観光ルート開発に関する施策の展開に資するために、実施したものである。今回の調査は前回同様、大学院に文化ツーリズム分野を持ち「観光まちづくり」「観光調査法」などを研究している、首都大学東京大学院、観光科学域の秋山研究室、吉田助教と研究生に加え、高崎経済大学の学生も加わり、官学連携で実施した。

2. 調査概要

(1)調査期間

平成22年1月から12月までの1年間

(2)平常時の観光客数および行動把握

①通行人カウント調査

下記5カ所で、四半期毎に各2回の通行人カウント調査を実施した。

- a. 上野：JR上野駅公園口周辺、上野公園袴越し広場、アメ横（上野口）、アメ横（御徒町口）
- b. 御徒町：御徒町北口（昭和通り方向）
- c. 浅草：雷門、新仲見世入口、TX浅草駅出口周辺、二天門前
- d. 谷中：根津駅、千駄木駅、夜店通り西日暮里口、夕焼けだんだん下、上野桜木交差点
- e. 浅草橋：JR浅草橋駅東口、JR浅草橋駅西口

②鉄道駅等乗降客数調査

ゲートウェイとなる駅等において、乗降客数を調査した。

③文化観光施設等利用実態の把握

区内の主要観光施設に利用実態を把握するため、郵送によるアンケートを実施

④来訪者調査

来訪者のパラメータ把握のため、アンケートを街頭配布、後日、郵送で回収

上野、平成22年10月6日（木）、7日（金）、

浅草、平成22年10月4日（火）、5日（水）、10日（日）5日間実施

⑤宿泊者調査

宿泊者のパラメータ把握のため、アンケートを宿泊施設で配布、郵送で回収。

(3)イベント時の観光客数

代表的（寺社祭事を含む）で、区外からの来訪者が多いイベントに着目し、主催者発表のデータを入手出来たイベント参加者数を集計。

(4)宿泊施設利用実態の把握

台東区ホテル旅館協会加盟宿泊施設に加え、民間事業者（複数）の宿泊予約サイトに掲載されている同協会非加盟の宿泊施設、城北旅館組合の組合員施設にも調査協力を依頼した。

(5) 外国人観光客数および行動把握

外国人の通行量をインタビュー方式でカウントし、出発国「識別」は中国人・韓国人留学生の目視による識別と直接聞き取りを併用。

3. 調査体制

一般的に来訪者の目的やニーズを把握する調査は、地区内への来訪者に聞き取りで調査をする方法が多用されている。この方法は、来訪者が複数の目的を持って来訪した場合などに、来訪目的の回答に偏りが発生しやすい。また同時に、来訪者ニーズの回答では、「認知的不協和」による偏りが発生し、精度が安定しにくい。本調査は精度を補完する必要性から、①来訪目的を把握する方法として、前回同様、来訪者の行動パターンに着目した調査を前回に引き続き実施、②来訪者ニーズの把握に「コンジョイント分析」を実施した。

4. 用語の定義

観光政策審議会の答申（答申第 39 号、1995 年 6 月 2 日）では観光の定義を「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」としている。非日常的に訪問する参拝客や買物客もこの範疇に入る。

調査では観光地区振興の観点から、観光行動の定義を「広義」「狭義」とした区分をしないで「ホスピタリティ産業に貢献するすべての非日常的行為」と捉え、買い物、食事、そして仕事のついで「ぶらり寄り道」は「仕事兼観光」と広く捉え、前回（平成 20 年度）と極力整合性を計った。